

第1回 枚方市都市再生緊急整備地域準備協議会 議事録（概要）

件名	第1回 枚方市都市再生緊急整備地域準備協議会
日時	平成30年8月24日(金)午前10時～12時
場所	枚方市役所 別館4階 特別会議室

出席者	<p>○委員（*）は代理者</p> <p>北大阪商工会議所 副会頭 平崎 健治郎</p> <p>京阪ホールディングス株式会社 経営統括室 経営戦略担当部長 大浅田 寛（*）</p> <p>株式会社ソウ・ツー 不動産事業本部 本部長 吉富 聡</p> <p>関西医科大学附属病院 病院長（学校法人 常務理事） 澤田 敏</p> <p>枚方信用金庫 専務理事 常勤監事 稲村 和裕（*）</p> <p>大阪市立大学大学院 工学研究科 教授 嘉名 光市</p> <p>内閣府 地方創生推進事務局 参事官 寺元 博昭</p> <p>国土交通省 近畿地方整備局建政部 部長 佐藤 哲也</p> <p>経済産業省 近畿経済産業局地域経済部 部長 奥山 剛</p> <p>大阪府都市整備部都市計画室長 池田 一郎</p> <p>大阪府政策企画部戦略事業室 課長補佐 南保 一夫（*）</p> <p>枚方市 副市長 長沢 秀光</p> <p>枚方市 理事 柳澤 秋介</p> <p>枚方市 総合政策部長 佐藤 伸彦</p> <p>枚方市 産業文化部長 松宮 祥久</p> <p>枚方市 都市整備部長 白石 金吾</p> <p>枚方市 市駅周辺等活性化推進部長 二見 康夫</p> <p>○事務局</p> <p>枚方市</p>
-----	--

■議事次第：

1. 開会
2. 挨拶
3. 委員紹介
4. 議事
 - (1)都市再生緊急整備地域として政令指定すべきエリア(素案)について
 - (2)都市再生の目標・方針となる地域整備方針(素案)について
5. 閉会

■議事内容

1. 開会

2. 挨拶

- ・長沢副市長挨拶

3. 委員紹介

- ・出席者紹介
- ・資料確認

4. 議事

(内閣府 寺元委員)

- ・準備協議会の目的及び概要の説明

(事務局)

- ・枚方市の状況、市駅周辺地域の取り組みの説明
- ・都市再生緊急整備地域として政令指定すべきエリア（案）の説明
- ・都市再生の目標・方針となる地域整備方針（案）の説明

■審議内容(各委員からの意見)

- ・今後のまちづくりをする上で課題の共有が重要。
- ・課題として、「枚方の地形的な特徴をまちづくりに活かせていない」「団塊ジュニア世代から下の世代の人口構成比率が全国よりも低い」が挙げられると考えられ、定住人口と交流人口の両方を増やしていくことを考えなければならない。
- ・ターゲットとなるグループにどのように、まちで快適にしてもらおうというストーリーを思い浮かべた方がまちづくりを考えやすい。
- ・呼び込みたい人がここに住みたいと思えるようなまちとして何が必要かという視点があっても良い。
- ・枚方市が具体的に京都・大阪間の拠点として何を進めて行くかと考えたときに、何を強みとして活かせるかを考える必要がある。若い人も入れて議論する必要がある。
- ・枚方市は京都と大阪の間に位置するという地勢的な特徴があり、よくある地方都市とは性質が異なる。よく言えば、2つの都市圏、経済力をうまく利用するということと、逆に言うと都市圏に吸い取られるリスクもある。
- ・拠点として魅力を高めるにはもう少し広い範囲を見ていく必要がある。
- ・北河内の中心として、あるいは京阪沿線の価値向上のためにどのような役割を果たすか検討する必要がある。
- ・投資をしたい人、投資を受けたい人をどう結びつけるか、面白い取り組みに投資が集まるという状況になってきていると考える。
- ・地元への設備投資に対する支援措置が受けられるよう、法令上必要な計画策定について枚方市のご検討をお願いしたい。

- ・民間投資による再整備だけでなく、未来の発展基盤や国際競争力につなげるために、準備協議会で知恵を絞っていく必要がある。
- ・まちは一気にできるわけではなく、何かメッセージ性がある施設ができれば、注目が集まる。
- ・スタートとしては、点から始めるプロジェクトでもよいと考える。医療系の大学を活かして健康医療を掲げる方向性があるのではないか。
- ・市駅周辺の活性化が枚方全体のまちの活性化に資するという点も重要なポイント。
- ・40万人の市民が豊かになる仕組みがこのエリアの中で実現できればよい。
- ・拠点をつくる時に空間、交通、人を惹きつけるマグネットが必要といわれている。公共用地などの空間、枚方市駅の交通はあるので、あとは人を惹きつけるマグネットが重要となる。
- ・まちの再整備は次の半世紀を見据えて先進的なものを目指すべきで、よくあるものではなく飛び抜けるアイデアが必要と考える。
- ・先進的なものというよりは枚方だからこそという生活密着的なインキュベーターを誘致することができれば、地方都市の価値が浮き立ってくるのではないか。
- ・これから人生100年と言われている中で、市民が働いてお金をつくる場があることが重要と考える。
- ・枚方で自分のライフスタイルを充実させその中で、人生75歳まで豊かに働ける環境整備が必要。
- ・予防医療や病気になってもすぐに治療できるリハビリ施設などが身近に存在していることもこれから重要と考える。
- ・枚方市には5つの大学があり、その分野も医学、看護、歯学、工学、外国語、と広く、外国人留学生も質が良い。
- ・5つの大学の存在は、大きなポテンシャル。また、留学生は母国に帰ると企業で高い役職につくことが多く、卒業後の留学生とどのようにつながるかは非常に重要。
- ・市内の学生は数年で市外に転出してしまう。学生が出て行かないような方策を駅前で考えるべき。
- ・駅を中心にして、学生がキーワードになる取り組みができればと考える。
- ・京阪沿線で見ると大学や優秀な私立高校・中学もあり、学生が大阪や東京に行くのではなく、地域に残るストーリーができれば面白い。例えばインキュベーションができると将来的に効果が表れてくる。
- ・5大学が枚方市民の市民大学化となり、生涯教育を受けることで長く働ける。それにより好奇心を持ち続け、経済活動が活性化すると考える。
- ・一般的にベッドタウンでは朝の降車率が低いが、枚方市駅では朝の降車率も高いことが特徴である。沿線では企業や学生が多く、このような特徴を踏まえることが枚方のまちづくりで重要と考える。
- ・沿線全体の輸送人員はピーク時に比べると減少しているが、枚方市駅の乗降人員は8~9万人程度であまり変わっていない。これは目的地として通勤・通学で利用されていることが要因と考えられるが、現在の駅周辺はそのポテンシャルを活かしきれていない。
- ・自動車の自動運転が実用化されると交通環境が変わる。将来的には各世帯に車が1台ではなくなり、土地利用も変わる。今は施設毎に駐車場の附置義務があるが、駐車場を集約することを先んじてしていくことも考えられる。
- ・まちを作っておわりではなく、継続的にリピーターを確保できる仕組みを考える必要がある。
- ・エリアマネジメントの仕組みが必要

- ・整備エリアに地域資源である河川区域が入っていても面白い。
- ・緊急整備地域をきっかけにして、スピードアップして進んでいければと考えている。
- ・枚方市駅前に有名私立中学・高等学校を誘致し、市民が安心して子育てをする環境を更に充実させなければならない。
- ・中核都市にとって相応しい玄関口となる駅前開発にしなければならない。

5. 閉会